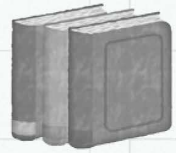




発掘 文学の宝



町では、本年度より「熊本県夢チャレンジ事業」を活用し苓北町に残る文学の宝を発掘しています。そこで、今回から苓北町にゆかりのある文豪たちに関するコラムを紹介する連載企画を始めます。初回を飾るのは、ことし生誕100年・詩人で思想家の吉本隆明さんです。

企画／ドットワークス 下川嘉奈

吉本 隆明

1924年11月25日 - 2012年3月16日
東京府東京市月島生まれ

「戦後最大の思想家」と評される詩人・評論家。実家は苓北町で船大工業を営んでいた。娘はハルノ宵子（漫画家）と吉本ばなな（作家）。



生誕 100年

苓北町にルーツを持つ知の巨人

宮崎國忠

2015年1月、NHKの特集番組《※》戦後史証言プロジェクト・日本人は何を目指してきたのか【知の巨人たち】第5回で紹介されていたのは、ことし生誕100年を迎える吉本隆明。その仕事場である書齋の映像には志岐八幡宮のお札が飾られていたのが見えた。吉本隆明（よしもと たかあき）は、または音読みで「りゅう

めい」と呼ばれることも多い。は、戦後日本を代表する詩人であり、思想家、評論家。戦後、多くの人に時代を支えた言論の人として尊敬され、また議論を重ねてひとつの時代を作った人として評価されている。著書に『言語にとつて美とは何か』『共同幻想論』『最後の親鸞』などがある。発表した著作・講演によって多くの人々に影響を与えた。その仕事量は膨大で、著作にすれば吉本隆明全集38巻に別巻が1巻の39巻。現在は35巻が配本されているが、いずれも大部なもの、その中身も多彩である。古代以前から現代へ、言語・宗教・政治・社会・科学・経済・家族・中島みゆきやロック音楽・アニメ・ファッション・サブカルチャーと生活全てにわたって関心が広く深い。常に常識を疑い、権威と闘い、時には物議を醸す発言もした。また、集積された183回分の講演音源はおよそ21,000回分の量がある。その音源は現在、インターネットで無料配布され誰でも試聴することができ

る。吉本隆明と天草の関係を一

番詳しく書かれたのは石関善治郎氏の『吉本隆明の帰郷』である。私たちが取材に協力して、造船業を営んでいた一家が志岐の港から逃げるように舟で上京したことや、家系のルーツを探り吉本隆明の思想の根幹に触れた。冒頭に紹介した書齋のお札は、石関氏の本を読んだ吉本隆明の二女で小説家の吉本ばななさんが天草へ来られ、関係のある場所を訪ね歩いた際、志岐八幡宮にお参りして受けていったものである。

胎児のときに母とともに舟で夜逃げのように上京したという経験からの啓示によって、植物と動物と人間との構成の間に進化の連続性を経験のなかに発見する（詩集『記憶の森の伝説歌』など）。言葉にこだわりのある詩人が作った詩の中には、イメージを天草に重ね合わせることができる語句が多く見いだされる。例えば、舟／時間／海／鳥／島／キリシタン／宣教師／家族の名／土地の名。また、ある詩

集の中に出てくる「仏木坂」は志岐の古戦場の名か。娘のばななさんが見えたときに確かめてもらったら「間違いない」と返事をいただいた。ふるさとへの強い愛着の気持ちは、残した言葉の中にちりばめられている。

苓北町にルーツを持つ「戦後思想の巨人」。その集積された知識と知恵は大きな財産として生かされなければならない。

お勧め本 『吉本隆明の帰郷』

石関善治郎著 思潮社

吉本隆明の源流を知るべく、天草へ。現地の人々の協力をもとに知の巨人のルーツを探る旅の軌跡が綴られている。苓北町の皆さまにお勧めの一冊。

